

# PV-Net News

第23号



PV-Net News NO.23 2011年発行 ■発行人：藤井石根 ■編集人：都筑 建 ■発行所：NPO 法人 太陽光発電所ネットワーク 〒113-0034 文京区湯島 1-9-10-202

■記事・広告のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-5805-3577 ■※記事および写真等の無断転載は固くお断りいたします。

■インターネットでも情報をご覧ください。http://www.greenenergy.jp ■編集協力：藤井和貴

※太陽光発電のことを英語で Photovoltaic power generation といい、略して「PV」と呼ばれています。

太陽光発電所ネットワークの英文名称 PV Owner Network, Japan を省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

## CONTENTS もくじ

### 1 もくじ

総会終了 / RE 出店お知らせ

### 2 総会報告

### 3-6 特集1

第1回 自然エネルギー学校

in 小諸ビレッジ

10月15,16日レポート

### 7-8 [PV-Net 最前線]

●神奈川県動向 **特集2**

●エコめがね / うちエコ診断

### 9 [PVカリキュラム]

太陽光発電所ネットワークの  
持てる Know-how を結集!

### 10-11 市民による太陽光発電の

逸失 CO<sub>2</sub> 削減量最小化事業

[会員の広場] 1枚から楽しむ  
独立型太陽光発電のすすめ

### 12-13 各地の発電量データと

太陽光発電所マップ

### 14-15

震災その後 (岩沼市からの報告)

### 16-21

地域の動き / 活動報告

兵庫・宮崎・山梨

・山口・神奈川・千葉

・関西・京都・中部

### 22-23 理事会・部会報告

### 24 事務局からのお知らせ

活動カレンダー

## 「第6回再生可能エネルギー世界展示会」、出展します。

RENEWABLE ENERGY 2011 EXHIBITION

### PVJapan 2011

この12月に幕張メッセで開催される、「再生可能エネルギー世界展示会」に PV-Net もブース出展します。

PV-Net は、会の紹介、災害・地震の PV 調査報告、声明、PV-Green 事業の展開・・・と NPO としての展示を計画しています。

再生可能エネルギーへの関心は原発事故もあり国内外に高く、特に PV 市場と技術革新の世界規模の激動シーンに触れるのは、市民の活動として PV の利用と普及を計る私たちにとって意義があります。

会員のみなさん、どうぞ参加してみてください。また PV-Net の展示ブースにもお立ちよりください。

開催期間中のお手伝い、ボランティアも募集しています。

日程：12月5日(月)～7日(水) 10:00～17:00

会場：幕張メッセ (千葉県千葉市美浜区)

入場：無料 (事前にインターネット登録もしくは当日受付登録)

<http://www.pvjapan.org/ja/>

主催：再生可能エネルギー協議会

同時開催：PVJapan2011 ※ PN-Net のブースはこちらです

交通：東京駅から・・・JR 京葉線「海浜幕張駅」下車

(快速利用で約 28 分) 会場まで徒歩 5 分

## 2011年度通常総会が開催されました

2003年創立総会から9年目となる今年の総会は7月30日(土)御茶ノ水の明治大学で行われました。総会では、前環境事務官の小林 光慶大政策メディア・研究科教授の来賓挨拶を頂きました。(第1部)「通常総会」、(第2部)テーマ「3.11 東日本大震災にどう立ち向かうか」では、東工大の黒川浩助先生から「防災復興へ向

けた再生可能エネルギーアプローチ」という提言もありました。そして(第3部)は会場を御茶ノ水駅近辺に移動しての懇親会でした。

3月の「大震災、福島原発事故をはさみ久々の再会となった方、初めて総会に参加された方、それぞれに交流があり、多くの情報交換ができました。

## 2011年度通常総会の報告

2011年度通常総会は、議長に藤井代表理事の他、資格審査委員、議事録署名人を選出しました。総会の構成は、第1部

- 1号議案 2010年度活動報
- 2号議案 2010年度決算報告
- 3号議案 2011年度活動方針
- 4号議案 2011年度 予算
- 5号議案 定款改訂
- 6号議案 役員選任

第2部は、被災地でのPV実態調査報告および防災復興へ向けた再生可能エネルギーアプローチ（提言）でした。

今年度の総会は、3月11日の東日本大震災、東電の原発事故の直後、大きな影響の中での総会でした。

- ・地震・原発災害での太陽光発電の活用のすすめアピール
- ・脱原発エネルギーシフトの声明発表
- ・東日本大震災太陽光発電被災地災害実態調査
- ・脱原発、新しいエネルギー政策を実現する会参加
- ・太陽光発電所長大集合イベント（地産地消の太陽エネルギーを基にしたエネルギーシフトの実現～大震災を乗り越え、今わたし達にできること～）など、PV-Netの会の内外に情報を発信し、会員からマスコミからも注目をあびることになりました。



活動報告では、相談活動の充実が図られ、PV基礎講座と要員育成、神奈川、兵庫、埼玉、長野などの地域で自治体や各種団体との共同、産総研との不具合調査(PVResQ)活動と記者会見・マスコミ発表の報告がありました。省エネ活動の推進では、「うちエコ診断」の取り組み、NTT西日本の「エコめがね」調査事業が報告されました。PV-Green（太陽光のグリーン電力証書化）事業は、全量固定価格買取制度の検討が進む中、温室効果ガスの管理や排出量取引、カーボンオフセット等の「環境価値の活用」が活発化しています。国内クレジット制度等の活用が原則として要件化して、国による国内クレジット制度の問題点も指摘されました。組織及び財政基盤の強化では、現

### 2011年度活動方針は、

- 1 地産地消の太陽エネルギー利用を中心としたエネルギーシフトの実現を目指すこと
- 2 そのために、1短期政策として大震災復興への積極的対応をはかること
- 3 2中長期にわたる太陽エネルギーの大量普及に対応する活動と政策提言をする
- 4 3相談活動の充実
- 5 4環境価値の見える化と活用をはかる
- 6 5PV-Netの組織変革（効率化）を実施する
- 7 6財政基盤を強化する

とくに組織部からは、3000名組織の早期達成を目指すための改善と、「地域代表者会議」を定着



在の会員数2467名、昨年（2287名）より180名の増加という報告がありました。決算および予算の立て方には意見が出されました。「PV健康診断の充実と一般化の検討」は産総研や東京工業大学（以下東工大）との協力で進めている報告があり、「PV健康診断」のデータベースの早急な回復への要望がだされました。地方自治体との協働活動を視野に入れた、PV-Net神奈川地域交流会相模原近隣グループの主導で12月に「おひさま市民発電所」などの市民共同発電所の報告がありました。

させ、地域交流会の活性化と活動領域拡大が提案されました。財政部からは、NPO法人制度の改正が6月15日に国会で成立しました。法律、会計、税制が大幅に改善され、NPOへの寄付等が容易になりこれまでの脆弱なNPO財政運営がよりやり易くなることでした。予算案については活発な意見がだされました。急速に拡大するPVノ国内動向の中、相談室は、PV不具合対応の推進、PVResQで検出の不具合処置の支援・フォロー、相談員の人材確保、ソーラーヘルプデスクの地域分散対応（地域での相談対応機会の増大）などの提案がありました。

活発な議論のなか、1～6号議案は賛成多数で承認、決議されました。

## 第1回 自然エネルギー学校 in 小諸エコビレッジ



### 小諸エコビレッジは・・・

太陽光発電所ネットワーク、こもろはす会議（小諸市内の環境市民ネットワーク）、株式会社アバンティ（オーガニックコットン製造・販売会社）の3者が共同し、今年4月から長野県の小諸市にてエコビレッジの実践をはじめています。自然と共生しながら、衣食住・エネルギーにわたる「持続可能な暮らし」を実現すること、その実践と学びの場をつくり、多くの人に体験してもらうことを目的としています。場所は、港区が小諸市内に所有していた「小諸高原学園」（移動教室・その他教育施設として利用）跡地。約13,000坪の敷地にはグラウンド、畑、キャンプ場、体育館、管理棟などが残されています。今年4月から使用可能な状況となり、少しずつ手を入れながら、小さなプログラムや実践をはじめています。PV-Netは、このエコビレッジで会員の皆さんのお力を借りながら、総合的な自然エネルギーの宿泊型体験施設として作り上げていくことを目指しています。

小諸エコビレッジ HP  
<http://komoro-ecovillage.jp/index.html>



小諸エコビレッジはJR小諸駅より「陽の当たる坂の町」として有名な美しい城下町を抜けて車で20分ほど登った豊かな山の中腹に位置します。

この度、小諸エコビレッジにて2011年10月15日、16日の二日間にわたりPV-Net主催の第一回自然エネルギー学校を開催し延べ24名の方にご参加いただきました。各方面の自然エネルギーのプロフェッショナルに学び、小諸エコビレッジのランドデザインを考え、作り上げていく企画の第一弾です。

一日目  
 第一日目は講師として岩手県葛巻町にある、「森と風のがっこう」代表 吉成信夫氏と千葉県南房総市のガンコ山代表 平賀義規氏をお招きし大変な努力を重ねながら

した。PV-Netの都筑事務局長は国内外のエコビレッジの現状と小諸におけるランドデザイン作りの試案についてお話ししました。  
**森と風のがっこう**：吉成信夫氏（96年に岩手に移住、石と賢治のミュージアムの開館に奔走。葛巻町で森と風のがっこうを町の協力を得ながら作り上げました。03年には県立児童館いわて子どもの森初代館長就任、10年3月退職。）

森と風のがっこうは01年、葛巻市の協力を得て、山懐にある廃校を利用し開校。「自然エネルギー」と「農的生活」をテーマに、地域にある資源を生かし、循環型の生活を体験できる場として、開校当時からたくさんのボランティアとともにひとつひとつの施設、そして体験型プログラムを作りあげて



「森と風のがっこう」ワークショップで補修した建物



きました。取り壊しが予定されていた教員住宅の2棟のうち、1棟をコミュニティ・カフェに改築。改築時に使う材料はすべて地元から出た廃材・素材を使い、カフェでは地元で採れた新鮮そして安全な卵や牛乳を使ったケーキや食事を提供。地元の方にとても喜ばれているそうです。またもう1棟は①「もちこまない もちださない」できるだけ廃棄せず、地場の自然素材、自然エネルギー使って改装を行う。②既存宿舍の躯体を出来るだけ残して耐震補強をし、断熱材を施す。③既存建築に水周りガラスの温室を増築し、自然エネルギーと自然素材を使って、心地よい宿泊施設をつくるというコンセプトの元、400人以上のボランティアの協力を得て、改修工事をすすめ滞在型体験施設として2009年に完成。暖房は薪、電気は太陽光発電、また排水も汚水浄化システムを手作りし自然に還る仕組みがあるとのこと。

施設面だけでなく、地元の方々と交流を大切に、お年寄りの持つ伝統技術・知恵と経験を、遊びを通して子供たちに伝える数多くのプログラムが実施されています。写真で見せていただくお年寄りや子供たちの笑顔がとても輝いていました。

「子供たちには自然の中で遊びを通しエネルギーのこと、人との繋がりの楽しさを知ってほしい。地域に根っこを張りながら未来の翼



も知っている”そんな両方を並立するような道をつくっていきたい」と吉成氏。

その土地だからこそできる暮らしを楽しみ自然に感謝する、本来の普遍的な暮らしの良さを思いました。●森と風のがっこうのHP：<http://www5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/>

**ガンコ山** 平賀義規氏（98年、人と森林の共生を目指し放置森林を再生し、建設された日本で最初のツリーハウスヴィレッジを運営）

千葉県南房総市にあるガンコ山は、1998年人と森林の共生を目指して、放置森林を再生し建設された日本で最初のツリーハウスヴィレッジ。プログラム参加者は手作りされた山の中のツリーハウスに宿泊します。自然体験プログラムには子供達だけでなく企業研修や外国人も参加し、今では年間2900名が利用する人気施設となっています。

ガンコ山の精神は「自主自立自治」。すべては自分たちの手で。その精神のとおり、ガンコ山にある様々な施設はすべてメンバーと体験参加者の手で建設。山の中に並ぶツリーハウスは全て間伐材や地材を利用して造られました。電力は太陽光発電と風力発電を併用し100%自給。また、沢水を利用し独立専用水源を確保、料理を

作る燃料は全て薪で賄い、沢水を利用した天然露天風呂はバイオディーゼルで沸かすなど、“今、そこにある資源の最大活用”をコンセプトに運営されています。平賀氏は「エコ施設を作ることが目的ではない」と言い切りますそして「日本の豊かな森林資源を生活に組み入れ、生活の安全保障を実現するような（持続可能な生活）サステナブルライフを提示することにこそ意味がある」と。

また「自立・共生・循環再生という森の持続性の維持は人間との良い協力関係から生まれます。森の中で自然の力を利用して自然と一体となった生活では、都会では発揮しえない人間の活力を引き出します。人間も生態系の一部であるという自然（じねん）の理に根差し、自然環境と戦うのではなく自然と共生していけば、現在日本が置かれている様々な問題から抜け出すヒントが得られるのではないかとおっしゃっていました。

自主自立自治の精神がこれから目指す持続可能な暮らしの大きなポイントになるのではないかと思います。

●ガンコ山ホームページ：<http://www.dd.ij4u.or.jp/~ganko/>

### 「小諸エコビレッジのグランドデザインをつくらう」

PV-Net 都筑 建  
小諸エコビレッジは株式会社アパティ、こもろはす倶楽部、太陽光発電所ネットワークの3つの団体により運営されています。「複数の団体によって運営することによりそれぞれの長所を持ち寄り、より良いエコビレッジを作りたい。3年後に常設設備が出来るときは、今から皆で作っていくプランを実行し世代交代と共に地域と繋がりも強めてほしい。」今回の学校の目的を最初に語ることから



話が始まりました。

今回、この小諸エコビレッジにどのような自然エネルギーを使い、活用しエコビレッジとして機能させていくのか、参加者と共に協議しながら行う方式をとった事も大きなポイントです。その前例として国内外のエコビレッジの歴史や概要あり方などを共有するために事例の説明がありました。

イギリスやデンマークなど海外で成功しているエコビレッジの紹介や、日本のエコビレッジについて、そして小諸エコビレッジの基本理念や置かれている条件を念頭に今後のエコビレッジ構想を練っていく事になります。一通りの状況を把握したところで次のステップへ移りました。

### ディスカッション① グランドデザインについて話そう！

このディスカッションでは日本のエコビレッジの海外での立ち位置とエコビレッジ協会との関連についての質疑応答がありました。海外では木の花ファミリーなどが有名ですが、小諸では独自の理念に基づいたエコビレッジを展開していくという意見などがありました。エコビレッジ協会との関連については今後検討していき、さらにグランドデザインの作り方についても話し合いがもたれました。

### 2日目 「具体的な構想を練ろう！」

岡本一道氏

「小諸には都会のような慌ただし生活とは違う時間が流れています。都会での“いつでもどこでも同じ暮らし”は出来ないけれど、自然の四季を味わう事が出来ます。都会の様に日和を無視する生活は大量のエネルギーを消費します。」岡本氏は毎日の天候に左右される、本来はその様に暮らしてきた「日和見（ひよりみ）」の生活を推奨しています。「太陽の恩恵を受けて生かされている事を忘れずに、“石油文明”から“太陽文明”へ。そこには不便なこともあるけれど、それ以上の豊かなものがある。」といいます。

現在、港区との制約で今後3年間エコビレッジの敷地内に建築物を建てる事ができません。そこで岡本氏は移動可能な8メートルの大きなゲルを敷地内に建てて人々の繋がり場にしようとしており自然と共に生きる小さな社会のモデルを作り、3年後にはこの土地で培われたものを最大限に生かしてコレクティブハウスを建てる事を目指しています。

ゲルとはモンゴル高原で遊牧民が使用している伝統的な移動式住居、コレクティブハウスとは北欧で発祥した共同生活を営む集合住宅で独立スペース・共有スペースがあり世代を問わず助け合いコミュニケーションをとり生活してい



くこれからの住宅の事です。近年、日本でもコレクティブハウスは少しずつ広まってきています。岡本氏より現在の小諸エコビレッジの構想を伺い、自然エネルギー学校参加者によるエコビレッジの構想を話し合いました。

### 「エコビレッジグランドデザイン～私が住みたいエコビレッジ～」ディスカッション

テーマ決めから基本となる考え方、何を大切にするのか、具体的な自然エネルギー設置まで自分の思い描くエコビレッジの意見を2グループに分かれそれぞれ出し合い、アイデアを地図に落とし込んでいきました。

その後、各グループの代表者がグループ内で出し合ったグランドデザインを発表しました。

#### グループ1

テーマ：太陽と風のトレイル

① 東京に在住で賃貸マンションなどに住みPVパネルを設置できない人々が小諸の地にPV

パネルを置き発電所としパネルに名前を記すなどしてエコビレッジへの参加意識を高める。その際、シローネ（実際に小諸で使われている地域通貨）や物産品の割引などで還元を受ける。

② バイオマス（ボイラー）、ツリーハウス作り、陶器作り、畑仕事などプロに頼み、本物の仕事を見て学べる場とする。

③ 近隣の温泉旅館や、広い敷地内や森の移動手段に乗馬や馬車を活用する。

④ エコビレッジとは癒しを求めてくる場所ではなく、自分のライフスタイル・今後の生き方を継続的に体験する場所であって欲し

い。  
⑤ 日々の生活について考え疑問があれば話し合いのできる場所にする。

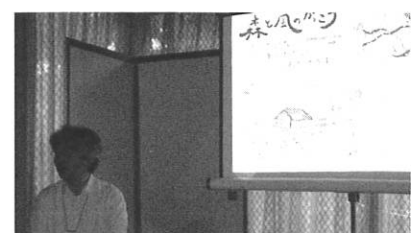
グループ2

テーマ：エネルギーの完結

- ① 地域との関わりも持ちつつ経済的に自立したエコビレッジにするため収入源を視野に入れて集客がある循環型の場所にする。
- ② キャンプ場にあるステージでコンサートを開けるようにしたり、100%と50%の自然エネルギー自給の宿舎をつくり体験型施設にする。
- ③ オープンキッチンやキッチンガーデン（見せる畑）をつくり“見せる暮らし”を表現する。
- ④ 放置されている土地にはエネルギーの発電所を作り食とエネルギーの完結を目指す。
- ⑤ 適正な技術と方法を取り入れて活用する。

その他のキーワード

- ・分散型社会の元祖
- ・地域文化教育
- ・エネルギーの自立
- ・食の自立
- ・自立した運営（財政的に）
- ・雨水の利用
- ・地産地消
- ・三里四方で完結する生き方
- ・適正な技術
- ・持続可能性
- ・100%エネルギーの家
- ・50%エネルギーの家
- ・古老に聞け！



- ・コスト意識を捨てよう
  - 必要だと思う施設
  - ・太陽光発電
  - ・共同発電所（パネルを置くなど）
  - ・メタン発電機
  - ・バイオガス
  - ・ツリーハウス
  - ・大人の遊び場
  - ・ステージと反響版
  - ・薪と食糧
  - ・畑
  - ・水源
- 人と意見を交換することで、自分ひとりでは考え付かないようなアイデアや問題が見えてきます。これまでのエコビレッジにはない新しい手段や、必須事項、現実的な問題などまだ自由な構想としての初期段階ですが色々なテーマや面白い発想がでてきて未来の小諸エコビレッジは面白くなりそうだと思います。

午後のワークショップの前に小諸エコビレッジ内に住んでいる小宅氏がおいしいお昼ごはんを振舞ってくださいました。信州サーモンを使った押しずしとベジタリアン参加者の為に“どんこ”で取ったダシを使ったお味噌汁。天気が良かったのでテーブルを外に運んで緑の中での昼食になりました。地元素材を使ったお食事はとても美味しく皆さん大満足でした。

「独立系太陽光発電電池を使ってみよう！」

PV-Net 中部 三浦悦夫氏  
午後からは、一枚のPVパネルからの太陽光発電の利用のワークショップでした。

まずはケーブル線を切って剥いたり、部品を圧着して配線の準備をしました。道具を使い慣れていないので間違えて線を切ってしまう

たり、なかなか大変でした。防水の加工まで施して準備完了です。今回スイッチングインバーターというものを使用しました。ソーラーパネルに陽がよく当たっている時に発電する12Vと電源からとる100Vを使い分ける事ができ、少しでも電圧が高い方の電源から電気が供給されます。天気の良い時間は太陽光発電を利用し曇って電気が取れなくなると普通の電気に切り替わるという仕組みです。そうすると普段、日中のパソコンの電源としても使用する事ができます。

配線の段階からの作業を理解すると震災などが起きた時にも、材料さえあれば電気を使用する事が出来ます。太陽光パネル一枚がいざと言うときとても役に立つのだと感じました。

ここまでで第1回自然エネルギー学校のプログラムは終了です。参加していただいた方々とお話をして、多くの方とつながりが出来たことも素晴らしいことだと思います。二日間を通して学んだ先進事例と今後の構想、エネルギーの事、共通しているところは「むかしの暮らしを振り返る」ことでした。現代の「便利」を補っている技術とエネルギーを私は簡単に手に入れすぎて当たり前のように考えて暮らしてきました。手間と時間をかけて暮らしていた時代の知恵と、今の毎日の暮らしの距離を少し縮めてみようとする日々の生活で考えるきっかけになりました。



# PV-Net 最前線 ☆

【神奈川県動き】

## 神奈川県のソーラバンク構想

3・11 原発震災は日本に様々な激変をもたらしています。震災地の復興支援。原発神話の崩壊等々。暗い話の中で皆が注目してその成行を見守っているのが神奈川県の動きです。太陽光発電の普及で、全国の自治体の先例になり、国の政策をけん引することにもなる動きを報告します。

3月11日は原発震災だけでなく太陽光発電を始めとする自然エネルギーの普及にとってもエポックになる日です。事故直前の午前中の管内閣の閣議で「再生可能エネルギー法案」の上程が決定されました。そして津波の大惨事から原発事故に大きく国民の関心が移る中、3月24日に神奈川知事選が告示され、民放元フジテレビのキャスター黒岩裕治氏が4月10日の開票で当選しました。当選の決め手は原発推進派だった同氏が「脱原発」を途中から宣言し、その具体的な政策として「4年間で200万戸分の太陽光発電を可能にする」「第一ステップとして夏の冷房需要に向けて5万～15万戸に設置する」「自己負担なしで設置できるようにする」の「かながわソーラバンク構想」公約でした。

公約を当選後具体化したのが県庁横断の「かながわソーラプロジェクト」創設です。多くの県では環境関係部署が太陽光発電の普及に携わるのが習いですが副知事をリーダーに政策局、環境農政局、商工労働局、企業庁が参加し、新たに「太陽光発電推進課」が設置されプロジェクトの事務局となりました。5月には構想の普及拡大を具体的な施策等を専門的な観点から調査・研究する「かながわソーラバンク研究会」(PV-Netから都筑事務局長が委員として参加して

います)も設置され「神奈川ソーラバンク構想」に加えて、「公共施設等における設置促進」、及び「メガソーラを含む大規模太陽光発電の設置促進」の3分野の検討を進めることになりました。

### かながわソーラプロジェクト研究会での検討

「圧倒的スピード感」で進めると言われる通りに研究会発足1ヶ月後の6月21日に第一次報告書がまとめられました。「再生可能エネルギー法案」の国会承認前でもあり住宅用太陽光発電の余剰買取をベースとした「シナリオ1」、全量買取かつ買取期間20年をベースにした「シナリオ2」の両面対応となりました。

「シナリオ1」は現行の制度下で①県民がリーズナブルな価格で、安心してソーラパネルを設置できる仕組みの構築と②ソーラパネル設置に伴う県民の負担感を、できる限り軽減する仕組みの構築を最優先で取り組むとしています。

- 1) 「ローン」活用の検討
  - 2) 県民は一定の自己負担も必要となるが自立運転機能の活用による「安心感」や、節電意識の高まりをつくる必要がある。
- とし、民間企業や団体を活用し県が主導的に相互の連携・調整を図りながら、ソーラパネルの一括調達、規格化(「かながわモデル」

の策定)、相談・支援構築を検討し、さらに県が「モデル事業」を先行実施し価格低減効果の検証を行いメーカーや代理店・施工会社等の努力を促すとしています。

8月26日国会で「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」が可決しました。(全面施行は来年7月1日)対象が太陽光発電以外に拡大され全量買取となり(住宅等の太陽光発電は余剰買取)具体的な買取価格や期間は第三者委員会で決めるというものです。政府の動きも「エネルギー・環境会議」を設置し12月頃「エネルギー基本計画」「原子力政策大綱」の見直しの基本方針を示し、来年夏頃に「革新的エネルギー・環境戦略」を決定する予定といわれています。

### かながわスマートエネルギー構想

神奈川県として新たに9月に「かながわスマートエネルギー構想」を発表し、「原発に過度に依存しない」「環境に配慮する」「地産地消を推進する」の3原則に再生可能エネルギー等の導入を進め、電力供給量の拡大を図る「創エネ」(16%程度、揚水・廃棄物発電を含む)、電力のピークダウンを図る「省エネ」(4%程度)の割合を、電力のピークシフトを図る「蓄エネ」と組み合わせることで2020年度県内で20%以上(現

在約2.3%)の目標を掲げとしました。また内閣府への特区申請で「太陽光発電による電力供給事業への工場立地法の適用除外」などの47件の規制緩和の提案を行い、9月議会で共同住宅太陽光発電設置補助などの補正予算が承認されています。200万戸の撤回で知事の公約違反発言と報道されていますが基本的な太陽光発電の大量普及は変わらずより着実になったと言えます。

その後の検討会では住宅用太陽光発電導入の自己負担が設備価格では1kWあたり50万円前半まで低減が進み、初期投資10年回収の中での初期費用の自己負担が当初の検討では40万円であったものが約28万円まで下がっています。研究会では直接メカ等のヒヤリングも実施されました。

第2次報告書が発表されます「ソーラバンク」の対象を拡大し

## スマートメータとその省エネ(うちエコ診断)活用



スマートグリッド、スマートコミュニティ、スマートメータとこの頃マスコミにも頻繁に取り上げられています。一種の流行の様相です。挙句はスマートハウス、スマートニッポンなどわけのわからない状況も一部にあります。PV-Netでは会員の関心の高いスマートメータについてその普及の良し悪しを含めていかなるものでどのように実際に運営されるのかを体感する機会を作りました。NTTグループが始めた「エコめがね」とその応用である環境省が取り組んでいる「うちエコ診断」への取り組みを経過とともに紹介します。

### 「エコめがね」とのかかわり

昨年末からNTT西日本からスマートメータのモニター協力がありました。関西圏のPV-Net会員170名程度にオムロンと共同開発中のスマートメータをテスト的に設置して使いその感想等を報告するという依頼(有償)です。本年の6月から10月まで関西地域交流会の協力で実施され、その報告書もPV-Netに届きました。す

にモニター段階から「エコめがね」の名称とデザインが示されていました。モニターのNTT西日本からの報告書の内容は、会員からの率直な指摘に丁寧に答え、実際に意見に従って改善を行うことを約束する内容のもので、ユーザの声を取り入れる姿勢が読み取れるものでした。このモニターを始めるときに考えたことはスマートメータの開発そのものにPV-Netもかわりその運用の実際を知る良い機会になります。さらにグリーン電力証書事業でネックになっている計量法認証電力量計の解決策としても無視できないものです。そこで、PV-Netとして単にモニター協力だけでなくスマートメータ運用を連携事業として行うことがPV-Netのノウハウになると考え初期の段階から提案していました。すでに6月の段階でNTT西日本とオムロンの合弁会社としてNTTスマイルエナジー社が設立され、モニター終了後そのスマイルエナジー社からサービス開始に当たり連携の打診があり、会員の参加の仕方や個人情報の取り扱い方

ソーラローンの拡大と継続やグリーン電力証書の活用することで「一括発注」「規格化」「相談・支援」を具体的にすすめる検討がなされ、11月15日には「共同住宅への普及」「メガソーラの設置促進」「公共施設への設置促進」「市民ファンドによる設置促進(含む「マイパネル構想」)」の提言を含んだ第2次報告が出される予定です。(文責:都筑建)

や事業費用等を話し合い11月1日からスタートすることとなりました。基本的にはインターネットが使え、なお無線LANが装備されていることが必要です。

### 「エコめがね」と「うちエコ診断」

エコめがねのホームページがあります。

(<https://eco-megane.jp/>)

「エコめがね」はスマートメータと言われるもので電力をコントロールして省エネをするだけでなく「エネルギーインターネット」と言われる電力と通信をつないだビジネスの基礎になるとして重要視されています。うちエコ診断とは、生活者の「行動の変化」に注目し、本当に効果のある削減行動を取るよう促すための支援ツールです。日常のエネルギー消費を「見える化」するために「エコめがね」を用いてやろうというのが連携事業です。PV-Netとして連携事業を行い、多くの会員がこの事業に関心を示し参加する人が増えていますが、問題点も検証する予定です。

## 太陽光発電所ネットワークの持てる Know-how を結集!

太陽光発電の導入施工にあたって心得るべき  
基本事項をテキストに作成

<はじめに>

奇しくも震災当日、3月11日の午前、再生可能エネルギー法案(正式には、「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法案」)が閣議決定され、8月26日に成立した。これにより、来年(2012年)7月に国が定める一定の期間・価格で電気事業者が買い取ることを義務づける、いわゆる全量固定買い取り制度が動き出す。一方、一般住宅用の太陽光発電については、10年間の余剰買取制度がスタートしている。太陽光発電はこのような状況の中でその設置が急速に増加している。この施工に対しての知識・技術が追いついていないのが現状である。国はやがて施工士制度を考えて、太陽光発電協会(JEPIA)が企画する、実技指導を含む「住宅用太陽光発電システムに係る施工研修」を行ってきている。しかし、参加希望者が多く、十分な受講が難しい状況である。

このときに当たり、PV-Netが今まで培ってきたノウハウを活かして太陽光発電の導入施工にあたって心得るべき基本事項をテキストに作成し、導入・施工に関するニーズに対応していくべきであるということになった。このテキストの制作に当たっては、太陽光発電の導入説明会等の経験者や施工経験者をのスタッフに選び、それぞれの分野について分担執筆をお願いしている。

<テキストの概要>

テキストの概要については次のように計画案が提示されている。

### ◆今、なぜ太陽光発電なのか

☆ エネルギー問題・・・エネルギーの基礎知識、自然エネルギー全般と太陽光発電

☆ 太陽光発電普及社会の将来・・・省エネ(技術)と自然エネルギー、地域分散型エネルギーシステム

☆ 太陽光発電普及状況の世界と日本の現状・・・太陽光発電の普及と政策的課題

### ◆太陽光発電の基礎的な知識

☆ 一般的入門編・・・太陽光発電の特徴、住宅用太陽光発電、発電の原理、セル、モジュール、アレイ、接続箱、パワーコンディショナー、その他の構成機器、系統連係システム

☆ 集合住宅への設置について・・・受電方式(一括高圧受電方式、戸別連系方式)

☆ スマートグリッドについて・・・スマートハウス、スマートコミュニティ、スマートグリッド

### ◆太陽電池のいろいろ

☆ 太陽電池の活用例・・・海外の無電化地域、人工衛星、ソーラーカー、メガワット、

☆ 太陽電池の種類と特性・・・結晶系、薄膜型、化合物系、色素増感、有機薄膜、量子ドット

☆ 太陽電池の歴史と普及の歴史・・・太陽光発電の普及施策・・・

補助金制度、エネルギー政策

### ◆業界とメーカー側からみる

☆ 日本と世界におけるPV業界の歴史と現状 ☆ メーカーの取り組み(戦略)と製品の特徴

☆ 外国製品の流入拡大について、☆ 蓄電池の最新動向と今後

### ◆ユーザーサイドからの情報提供

☆ 設置者事例報告・・・経済性と省エネの取り組み、ユーザーから見た信頼のおける業者選び

☆ オール電化とその評価・・・電力メニューで何がお得か

☆ 東日本大震災被災地のPV調査報告と自立運転機能について

☆ 補助金制度について・・・設置者の意識・意向

☆ 問題のある設置施工・・・トラブルの例

☆ グリーン電力証書システム

### ◆太陽光発電のメンテナンス

☆ ユーザー側からみた太陽光発電・・・メンテナンスと故障事例、PV健康診断

☆ 不具合点検に必要な太陽光発電システムの基礎知識、現地調査

### ◆施工・設置について

☆ 太陽光発電システム施工の基本・・・導入の手順、設計から運転までの流れ

☆ 設置の留意点・・・日射と影の影響、設置方位、設置角度、ストリングについて、掃除、保証

☆ 施工の基礎①屋根の基礎知識、システムの設計、発電および経済のシミュレーション、

②標準施工方法、特殊地域への設置、③電気関係の施工について、竣工時の点検、系統連系契約

☆ 関連法規と施工に関する手続き・・・建築基準法との関係、電気事業法との関係、

### ◆実際の施工にあたって

☆ メーカーの施工基準・施工説明書内容理解

☆ 概算見積、現地調査・・・現況の把握（屋根勾配、屋根材の状況、屋根裏から）、電気系統点検（分電盤、電力計、機器配置、配線ルート）、

☆ 見積書作成→作業工程表作成→施工・・・パネル設置、電気工事、系統の測定、電力会社立会い関係、お客様への説明、系統連系手続

◆ その他 ☆ 販売についてコンプライアンスの注意点。 ☆ 太陽熱温水器について ☆ 省エネ全般

<計画の狙い>

これらの項目について、構成を考えつつ順序立て、冊子としてまとめる作業を急いでいる。

このテキストの狙いは何か、第一にユーザー目線に立って設置・施工を考えていく姿勢である。今まで導入施工の一般的説明書は、メーカー・マニュアルの基づく理論的な指針を中心にして作られている。そこに実際の設置者としてのPV-Netが持っているデータやノウハウに基づいた、実際に役立つテキストを企画するものである。例えば、陰の影響にしても、これを避けるために「バイパスダイオードが組み込んであります」という説明があるが、モジュールの配置から、ストリングを考慮して陰の影響の軽減を図ることまで考慮すべきである。ビルが建って建築基準法では認められている建築物でも陰の影響は避けられない、この場合はどうするか。そんな事例との対処方法はどうか。電力メニューにおいてオール電化が

推奨されたり、設置に当たってはエコキュートが推奨されたりするが、それが本当に「お得」なのか、ユーザー側のライフスタイルから詳しく検証してみる必要がある。「太陽光発電はメンテナンスフリーです」と売り込まれてきたが、産総研とPV-Netの協力による調査から、10年ぐらいの間にはシステムの3割ほどが、何らかのトラブルを経験しているのである。不具合は起こるものだと、メンテナンスをも考えておくことは常識であるといえる。

一方でこのテキストは、太陽光発電関係の技術要員だけに限らず、これから導入・設置を考えている一般市民に対しての説明・相談におけるマニュアルとなることも狙いの一つである。

このテキストの完成に期待したい。(文責 横谷)

るPV設置者の方々が自由に利用できる環境に置くことこそ、市民の手で太陽光発電の健全な普及を目指してきたPV-Netの社会的使命なのではないか、との認識があります。PV健康診断を一般の方も使用できる状態にするという方向性は何度か話しあわれてきましたが、費用面での問題もあり、なかなか先に進んできませんでした。今回はその資金調達も視野に入れ、申請しています。

事業期間は原則3年間です。初年は発電量の実態調査、2年目はPV健康診断の一般向けシステムの検討、3年目にPV健康診断の一般向けシステムを構築・実施するスケジュール(仮)としています。

順調にいけば、3年目には一般向

けPV健康診断システムが構築されていることとなります。

### ●自治体調査を実施しました

8月下旬に住宅用補助金政策を取っている約400の自治体へ「発電量の実態調査アンケート」を送付しました。昨年度PV-Netと産業総合研究所での共同発表した不具合調査結果も同封し、システム不具合に対する認識や関心の度合い、そして今回の発電量実態調査に協力してもらえるかどうかなどを内容に盛り込みました。回収率は90%以上となりました。回答結果に関しては、システム不具合に対する関心については50%以上の自治体が「興味はある」と回答し、関心の高さが伺えました。一方で発電量の実態調査に「協力

できる」との回答は1割にも満たず、自治体で保管している個人情報をも目的以外で使用するなどのハードルの高さが伺えました。協力可能との連絡を受けた自治体のうち、沖縄や北海道、東北積雪地帯、山陰など、特徴的な気候区に所属する自治体や、山口県や埼玉県、神奈川県など地域交流会が活動する自治体など、発電量の特徴をつかむことが大切な地域や、今後のPV-Net活動にとってプラスとなる地域へ協力を依頼していく予定です。地域交流会が関係する自治体は、この事業をきっかけに自治体との関係性を構築する機会になればと思います。今事業に対する、会員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 地球環境基金・発電量実態調査事業が採択されました!

### ●事業概要

3年ぶりに「地球環境基金」の助成申請が採択されました。事業名は「市民による太陽光発電の逸失CO2削減量最小化事業」です。

住宅用太陽光発電システムへ設置補助金を出している自治体へ協力を仰ぎ、各地における太陽光発電の発電量実態調査を実施し、その過程でPV健康診断も実施して、システムの不具合調査も併せて行います。発電量の実態調査を通し、正規の発電量が得られていない不具合システムの割合やその原因を調査し、システム設置後のフォローアップ「メンテナンス」体制の必要性とその対策を明らかにしていかうとする事業です。

大量普及時代に突入した太陽光

発電ですが、「発電量が期待通りに発電していない」という状況が少なからず発生しているという現実がPV-NetのPV健康診断を通し、把握されています。またその件数の多さは、昨年度の(独)産業技術総合研究所との共同調査でも判明したとおりです(会報21号参照)。

問題なのは、そのような実態が世間一般の中であまり認識されていないこと。そして、適切な処置をすれば本来の発電量が得られるにもかかわらず、設置者自身が発電量の低下に気づかずに、本来の発電を得られないまま放置されていることです。

事業名は、本来の発電をしていれば、CO2削減分としてカウントできたはずの削減量が、発電量

の低下により「CO2削減量」そのものが失われてしまったという意味合いと、その失われた「CO2削減量」を最小化していくことを目的とすることから付けられました。

本事業では、設置後のフォローアップ体制づくりの一助として、今まで会員のみを対象に提供していたPV健康診断を、一般の方も使用できるシステムとして再構築、もしくは新構築する方向も検討する予定です。

設置者がシステムの健康状態を自己管理するための方法として、PV健康診断はとても有力な手段であることはPV-Netのこれまでの活動で証明してきました。この有用なシステムを60万軒を超え

## 会員の広場



PV-Net 関西交流会 奈良会員 西田 三千男

3.11以降、原子力発電稼働停止による電力不足で日本列島が節電列島化、どこかの家庭でも省エネにあれこれ知恵を絞る生活。ムダなエネルギー消費は絞られても、必要な最低限のエネルギーは絞れない。自宅に太陽光発電システム設置有無に関わらず、独立型可搬式太陽光発電システムの導入のお奨めです。日常の更なる省エネに、電力不足の一時停電対応に、万

### 「1枚から楽しめる独立型太陽光発電」利用のすすめ

の災害時の対応などの電源に如何ですか。

私の家では、阪神・淡路大震災の影響で家が傾き、太陽光発電の設置を思い留まっていた。10年前から省エネ生活を本格化し、浮いたお金で8年前から独立型固定式を導入しはじめ、毎年容量を増やしつつ創エネと更なる省エネを促進、4年前に系統型(2.7KW)に切り替えた。今では省エネ達成率55%。更なるエネルギー削減に向けて独立型(100W)の可搬式を手作り、2011年3月に完成しました。日照中にバッテリーに蓄電、夜に照明(LED)・テレビ(小型)・ラジオなどの電源に使用しています。生活空間を限定してこれだけで夜間を過ごす。電源無くなったらやすむ。スモールライフです。こういう経験を積んでおくことが

災害列島日本では重要と家族対話。“備えよ常に”をモットーとして。

その成果をイベントや勉強会・講座など県内各地で紹介。「どこでも設置可、可搬型なので移動は簡単。ベランダに、庭に、野外活動に」とPR。反響良好です。「…自分も作れる?」「…作り方教えて!」「素人でも作れるの?」などなど。

6月18日、関西交流会『奈良の会員訪問めぐり』で、省エネ・創エネ談義の中で紹介、11月27日、京都交流会主催の京都フォーラム2で、『利用事例と作り方』を紹介する予定。

\*創エネにご関心高い会員の皆さんへ

ぜひ自分流のものを作っただけがでしよう。系統型とは違ったルンルン気分が味わえますよ。

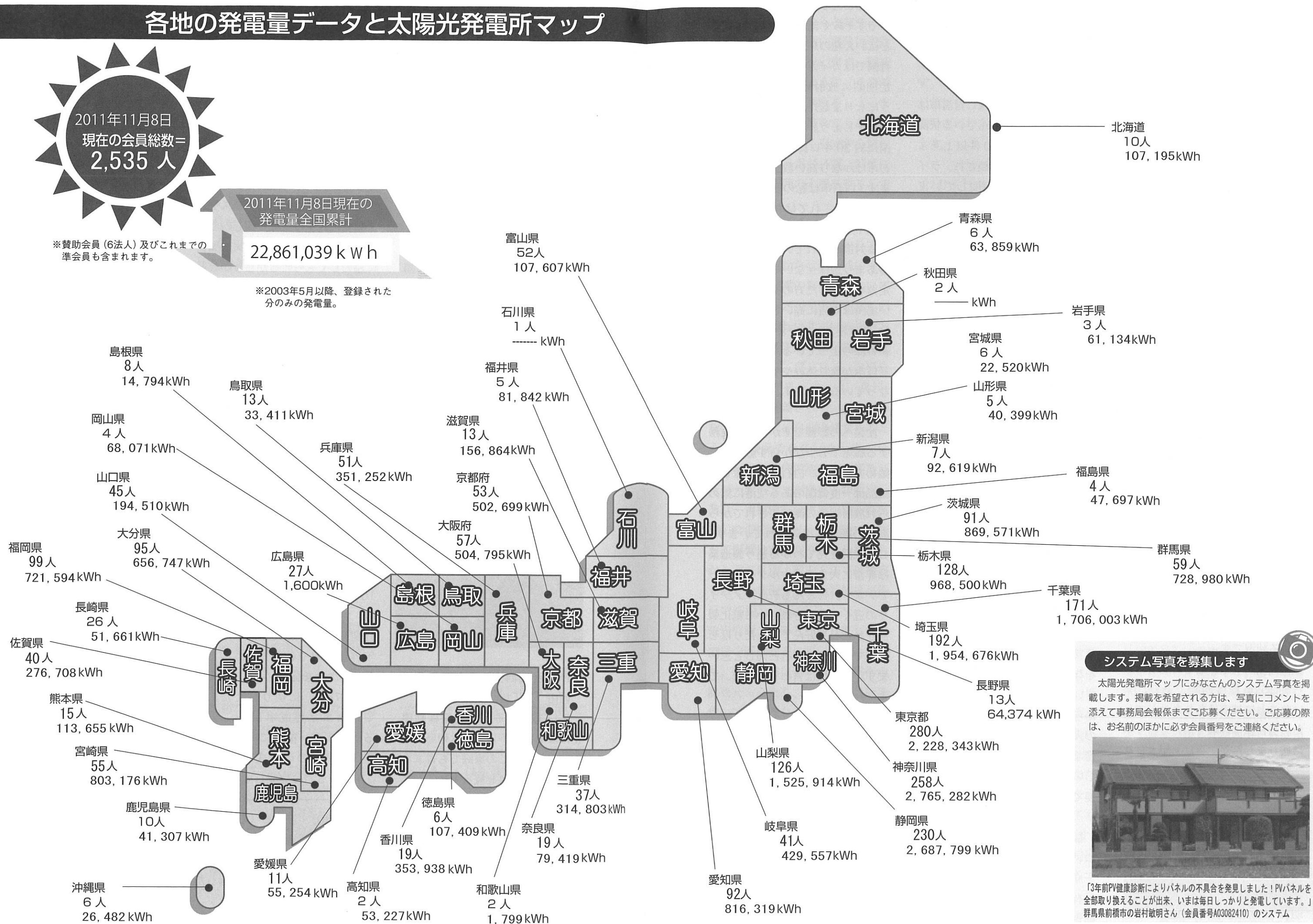
# 各地の発電量データと太陽光発電所マップ



※賛助会員(6法人)及びこれまでの準会員も含まれます。



※2003年5月以降、登録された分のみの発電量。



## システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局会報係までご応募ください。ご応募の際は、お名前のほかに必ず会員番号をご連絡ください。



「3年前PV健康診断によりパネルの不具合を発見しました！PVパネルを全部取り換えることが出来、いまは毎日しっかりと発電しています。」群馬県前橋市の岩村敏明さん(会員番号A03082410)のシステム

# ソーラー助け合い復興プロジェクト

## 「震災その後」

宮城県岩沼市 磯崎勇太

今回「震災その後」について投稿させて頂くことになりました磯崎と申します。まだ齢(よわい)28の若造で普段は定期会報を斜め読みしかしていない不真面目?な私ですがここ宮城県岩沼市にて震災と復興を経験、そして福島第一原子力発電所の影響に日々晒されている現状を皆様と共有したく筆をとらせて頂きます。

私の住んでおります宮城県岩沼市は仙台より南に約30kmに位置しています。東側には海、西側には広大な山、沿岸沿いから山側まで住宅地が点在している仙台市のベッドタウンです。津波は内陸に約3km程のところまで到達、海岸から1~2キロまでの沿岸地域の家屋を破壊し、岩沼市全域のライフラインは全て絶たれました。震災当初は避難所に約3000名もの方が避難、半年以上経過した現在も仮設住宅には1000名余りの方が身を寄せ合って生活している状況です。

私の発電所(家)はその海沿いから約15km程度内陸であり、幸いなことに被害はありませんでした。当日私は休暇を頂いており家に居りましたが、妻は海岸よりたった1キロ、完全に津波に浸かった場所で働いており絶望的な状況でした(死者が多数出た荒浜地域)。幸いにして職場は3階建てであり、上の階に避難することで難を逃れることができました(3日後に自衛隊のヘリコプターにて救助)。3日間私と当時1歳の息子

は眠れない夜を過ごしたのは言うまでもありません。

あれから半年が経過し岩沼市は急ピッチで復興が進んでいる状況となっています。20件以上あった避難所は全てが閉鎖され、ライフラインも完全に復旧しています。死体安置所に使用されていた体育館では運動会が何事もなかったように開かれ、同じく死体安置所に使用されていたイベントホール(岩沼市ではないですが)ではB'zやサザンオールスターズ桑田佳祐さんがLIVEをしています。

ただ本当に被害の大きかった臨海地域については先に記述した状況とは異なり未だに多くの問題を抱えています。現在の懸案は被災した学校や公共施設の建て直しと聞いています。津波の対策を講じながら復旧を進めるのは大変難しいとのこと。妻の職場が中学校なので学校を例に説明しますと教室等は2階より上がマスト、周辺住民が避難できるような構造の要求、景観、建築費用、そして回りの住民からの「住民の民家より公共施設を優先するのはおかしい」発言等。色々な人の色々な考え方をなるべく尊重しようとし紛糾しているように見えます。比較的上から目線な私の考えですが、一人の大きな権限を持つ人が回りの雑音を気にしないで一気に進めて欲しいと思います。今はスピード重視で対応すべきです。

福島第一原子力発電所の影響について書きます。岩沼市は福島第一原子力発電所より北約80キロに有ります。事故当初風向きが南向きだった事も放射能汚染は

ほとんどありません。測定値も低いです(あくまでも磯崎の判断)。とはいえ私の息子が通っている保育園ではガイガーカウンターにて定期的に放射線量を評価するようになりました。精神衛生上必要なのでしょうか。一方で岩沼市より南に約30キロに位置している白石市はかなり高い数値となっています(白石市は私の職場があります)。報道されてはおりませんが公園や学校、保育園の土は表皮を削る対策がされていますし、外でもあまり遊ばせないそうです。測定器を購入した方の話ですと、高い場所は本当に高いとのこと。多分、瓶は埋まっていますが(笑)。新幹線の走っている高架橋の下などは水が流れ込みやすく値が高くなっているそうです。

産業への影響ですが、私の勤務する職場でも少なからず影響がはじめています。白石市で生産した製品は一度韓国のある空港に集められ放射線量の測定がされてから海外の顧客に出荷されています。この状況を見てわかる通り製造業は非常に大きなペナルティを負っています。皆さんもチェルノブイリの近くで生産されている電化製品をわざわざ好んで選んだりはしないでしょう。それと同じだと思います。農業用は言わずもがな、です。

一般の生活について書きます。皆さん極めて鈍感でいつもと変わりなく生活しているように見えます。小さい子供がいる場合でも非難するわけでもなく対岸の火事状態。食べ物の産地を気にしている方も極めて稀だと思います。他の地域はどのようになっているのでしょうか?原子力関連の分野で博士号を取得、過去に高速増殖炉の

開発に従事していた評論家 大前研一氏が指摘しているとおおり、報道機関は聞こえが悪い部分は報道していないと私は思います。戦時中の大本営発表のように。その情報のみでは誤った判断をしてしまうリスクが高い、流れてくる情報を得て判断する事が必要、鈍感になっている周囲の人達を見ると切に思います。

ここまでは深刻な話ばかりでしたので、ここからは震災時に実感した太陽光発電の有用性について書きます。皆さんが啓蒙されている通り自立運転は非常に有用であったと実感できました。震災後ガス、水、電気、ガソリン、食料全ての供給が止まりました。食料、水は皆さん備蓄されていたり田舎なので井戸水や自然の湧き水等どうか確保できていました。私の住んでいる住宅地は大規模なスーパーやドラッグストアが近所にあり、市役所も徒歩でいける範囲でしたのでガソリンについてはさして影響は有りませんでした。しかし電気は別。他の方法では補完しにくい状況でした(電池は品不足で高騰)。我が家は4.2kwの太陽光発電システムが有りましたので昼の間は潤沢に電気が使えました。近所の方にお声掛けし携帯電話を充電したり、炊飯器でご飯を炊いて配ったり、冷蔵庫を動かして水を量産(夜、停電の間に冷蔵庫の中が暑くならない様にするための冷却用)、テレビ視聴、充電機の充電(夜間に照明、ラジオ、携帯電話の充電に使用)にと活躍しました。妻は遭難しており一歳の息子と二人きり。食料の確保や給水車を水を貰いに行く等、対応できる状況では有りませんでした。幸いご近所の方が全てフォロー

してくれました。それは太陽光初システムを活用し、ご近所の方の携帯充電や炊飯を請け負っていた為に協力頂けたと考えています。今回の経験からだと思いますが震災後に太陽光発電システムを増築された方が増えたと感じています。

もう一点、特記事項があります。オール電化についてです。私の家はオール電化です。オール電化は、より多くの電気を使って欲しい、出力調整がしにくい発電所の事情から深夜電力を活用して欲しいと考えている電力会社の希望から発生したと私は考えています。今回の震災後、オール電化は制限ある電気を多く使ってしまう悪い物というイメージになっていると感じています。しかしオール電化は大規模災害時はメリットが多い事が実感出来ました。私の地域はもともと宅地を分譲していた会社がガス関連会社だったと言う理由でガスのお宅が多いです。震災後、ガスの復旧には約1ヶ月を要しました。電気は3日。ガスのお宅は一月の間満足に調理、入浴すら出来ず大変苦労されていました。ガス管は地下に完全に埋設されており、修理には大変な時間と労力が掛かります。また管理会社が地域によってバラバラであり、復旧のタイミングもまちまち、ご近所でも復旧のタイミングが半月もずれる事がありました。それに対して電気は電線の多くが地上、電信柱上であり修理が容易、また電線は格子状に配線されていますので一部が完全にダメになっても別の方から融通できるそうです。上記の理由でオール電化は大規模化災害に対して強いと言えそうです。オール電化と太陽光発電システムはセットで設置すれば災害に

対して大きなリスクヘッジになると思われます。

ド理系で文才のない私がダラダラと駄文を綴ってきましたが、最後に私の考えを書きます。震災によって我が岩沼市始め沿岸地域は地獄の惨状と化しました。戦時中海外に居た祖父曰く、戦争より酷い状況とのこと。しかし今回の震災は失ったものだけでは無い、得たものや知見もたくさん有るはずです。原子力発電の危うさ、社会的インフラの脆弱性等、ここに挙げるべき項目は個々それぞれバックグラウンドで異なるかもしれませんが、確実に皆、何らかの知見、経験を得ているはず。PV-Netは太陽光発電を推進し、将来より良い社会を作ろうとしている団体です。今回の震災で得た太陽光発電システムの活用事例やトラブル等の経験、知見をPV-Netの方策に確実にフィードバックし、来たるべく未来をより良くする為に活動する責任がある、震災で生き残った私はそう強く思います。以上、駄文失礼致しました。今後とも何卒宜しくお願い致します。

PS. 偉そうに書きましたが、私は今回の震災で身内や財産を失っては居ません。愛車が一台流されて廃車になった程度です。妻の職場(中学校)の状況は本当に聞くに耐えない状況でした。感情的な部分も御座いましたが何卒ご容赦頂きたい。



磯崎邸 (4.2kW) の発電システム



## 兵庫地域交流会



～仲間が1名増えました～

PVネットメンバーの皆様、秋もたけなわに成ってきましたが益々お元気で、地域のボランティア活動にご多忙の事と風の便りに伺っております。

11月は何と言っても、全国的に催し物のシーズンで、今年は、東北の大震災、原発事故、15号台風など国内も災害の多い年でしたが、海外でもタイの水害、トルコの地震とボランティア活動に従事される方がたにとっては特別多忙な年に成りました。兵庫地域交流会も毎月世話人会を開催していますが、皆様大変熱心で、遠方にお住まいの方も必ず出席して頂いています、この度又1名仲間が増えました、青木康彰さんと言ひ、昭和13年の御生まれですが、神戸外大で古代ギリシャ語を勉強しておられる努力家です。今ギリシャは大変な状態ですが、ローマ時代、上流階級は全てギリシャ語で、哲学は元より、有名な建築、土木も全てギリシャ人の技術と言われていいます、広大なローマ帝国はラテン語ではなく、ギリシャ語で統治されていたようです。

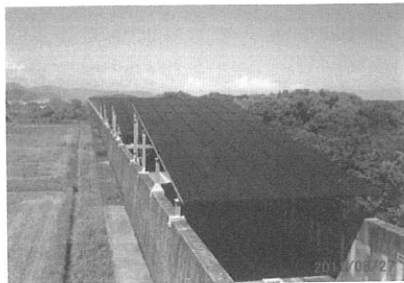
10月22日西宮市の堀江オルゴール博物館の見学会を催し、ロシア最後のニコライ2世がアレキサンドラ皇后に贈った、大型のオルゴール等100点を超えるコレク

ションを見学し、素晴らしい音色に、しばし我を忘れました。又当館に設置されている、サンヨー製の30kwソーラー設備についても専門家の説明を受け有意義なひと時を過ごしました。

12月18日には昨年に引続いて今年も財団法人ひょうご環境創造協会と共催でフォーラムを開催します可能な方は是非ご出席下さい。

(兵庫地域交流会 北方 龍一)

## 宮崎地域交流会



～メガソーラー見学会をしました～

宮崎地区交流会(NPO ひむかおひさまネットワーク)は、年間十数回の自然エネルギー利用の啓発と太陽光発電の相談会等のイベントを実施しています。

8月27日にメガソーラー見学会をしました。この日は午前中、綾町の児童館で20数名の小学生に向けソーラーフラッグ製作教室を開催しました。昼食後、小学生と引率者、私たちの合計34名で都農町にあるJRのリニアモーターカー実験線跡地に設置されたメガソーラーを見学に行きました。3.9m x 10mの架台261基を3.9kmの高架上に並べ、1万枚超えるCIS太陽電池設置し、1メガワットを発電する設備です。建設費は6億円だそうです。

果てしなく続く黒いパネルの長さ、子供も大人もただびっくりでした。

宮崎県では、「みやざきソーラーフロンティア構想」を策定し、太陽光の①『製造』②『発電』③『活用』の3拍子揃った太陽光発電の拠点づくりをめざしています。① 製造では、年間生産能力900メガワットと世界最大級のソーラーフロンティア(株)の工場が国富町で稼働している。② 発電では、「メガソーラー全県展開プロジェクト」で、メガソーラー設置企業を後押ししている。県内では既に、3箇所に4メガソーラーが設置され稼働している。③ 活用については、国の補助とは別に県も補助し、さらに住宅用太陽電池設置に限る融資制度(最高300万円 年利1.9%固定)をもうけている。

年間の快晴日数、日照時間ともに全国のトップクラスの宮崎県の恵まれた環境を活かし、太陽光王国を築きたいものです。

(宮崎地域交流会 栗原稔)

## 山梨地域交流会

～山梨からは2点報告します～

8月21日(日)に、身延町主催「エコライフ・フェスタ in みのぶ」に出展しました。災害時にも役立ち、持ち帰って実際に使える物とを考えて、セル約1/4～3/4枚で扇風機を動かしたり、



オルゴールを鳴らす物を作りました。子どもたちが熱心に取り組んでくれました。夏休みの工作の追い込み製作としても役立ちました。

10月22日には「第13回ライトダウン甲府バレー」八代会場イベントを、笛吹市八代岡地区の岡公民館にある市民立共同発電所と八代ふるさと公園で行いました。内容は、身延でのイベントの時同じミニソーラー扇風機製作と、ライトダウン後の星空観察会を計画しました。去年は大きな発電パネル1枚を作って発展途上国に寄付する取り組みを行いました。今回は、ミニソーラーパネルで扇風機が回る物を作って実際に各自が家庭に持ち帰り、来年の夏にも災害時にも役立つようにしました。講師の広瀬さんより、太陽電池の仕組みの説明から始めていただき、ハンダ付けで行う細かい作業でしたが近所の小学生もがんばって作りました。星空観察会は、ラッキーなことに、朝から降っていた雨が上がったところか晴れ間も出て、夏の大三角形が見えました。



ライトダウンは、東日本大震災以来、山梨でもこれまでの電気の使い過ぎを見直す意識が高まり、9/9の電力制限解除以降も大きな看板などを消している企業が多く、夜8時のライトダウンよりも前から暗い印象でしたが、ライトダウン後は更に暗くなり甲府盆地のライトダウンの定着を実感できました。

(山梨地域交流会 芦澤 公子)

## 山口地域交流会

～エコフェア 2011 in UBE～

10月29、30日の両日、表記催しが山口県宇部市常盤公園で開催されました。約40の企業・団体・組織の46ブースが屋外テントと「湖水ホール」という屋内に設けられ、1万人の来客を予想するイベントです。宇部市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA)のブースの真ん中で、PV-Net山口地域交流会(PVNY)は、パネル展示と、子供のソーラーカー製作を行いました(写真1)。11月6日開催の「宇部まつり」にも同様の展示を行います。PVNYの会有志とUNCCAと共同で15分ほどで作れるようにソーラーカーキット100セットを数ヶ月かけて準備しました。太陽光の下で良く走るカラフルな車で、作った子供たちは誇らしそうでした(写真2)。あいにく二日も雨模様で、試運転は、電球の力を借りました。パネル展示は、去年の反省から、8枚にコンパクト化し作りましたが、やはり、パネルをじっくり説明する余裕はありませんでした。その

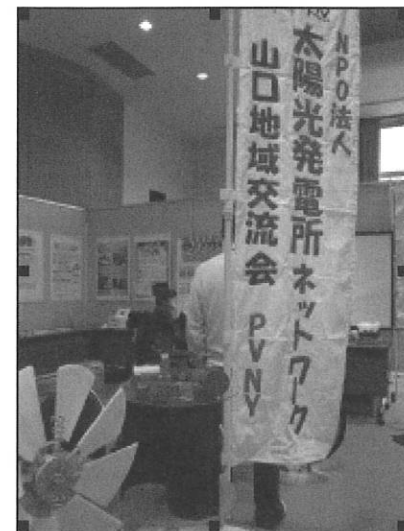


写真1 自作おもちゃの風力発電機もあるPV-Netのブース



写真2 ソーラーカーが完成して嬉しそう

代わりに、PV-Netのパフレット「輝け！われらの太陽光発電所」を渡して普及しました。ある太陽光発電設置業者さんがPV-Netに興味をもたれて詳しく質問を受けました。ソーラーカー作製は2日間で48台でした。原価は人件費抜きで1台800円ほどですが、UNCCAからの補助で200円で提供しました。県内の光市、山口市から会員等が見学に来られました(山口地域交流会 溝田忠人)

## 神奈川地域交流会

～地域のイベントにひっぱりだこ!!～

①7月22日(金)：ひらつか環境フェアに出展・・・「ひらつか環境フェア2011」が、OSC湘南シティオープンモールで3日間開催された内、神奈川地域交流会と近隣グループPV湘南として22日のみに参加出展した。すぐ隣には「トイザラス」などがある商業施設の真ん中で、人出はいつでも多い地区である。当日は気温もそう上がりず穏やかな日中で、子供連れのご家族などが買い物兼ねてぞくぞくと立ち寄ってくれた。出し物は例年通り「ソーラータウン」、「太陽光発電でドン！」と新たに太陽光パネル1枚で「テレビ放映」、加えてパネル展示を行った。噴水はポンプの故障か、うまく機能しないので中止した。

②8月4日(木): 神奈川力大賞に参加、プレゼンテーション・・・神奈川県青年会議所が毎年「県内の団体に対して参加を呼び掛けている。今年は神奈川地域交流会として参加を試みた。参加団体50数組以上、予選は書類審査でパスして、8月4日に神奈川新聞本社で本選のプレゼンテーションに。これには20団体が臨んだ。活動状況を5分間にまとめて発表するというもの。世話人の古峰さんがパワーポイントを使って時間通りにプレゼンをしたが、後日落選の通知が来た。

③8月7日(日): 神奈川県青少年センター「科学の祭典」に出展・・・神奈川県の青少年センターが毎年夏休みに開催している恒例のイベントである。今まで太陽光発電をテーマに参加してくれるところがなかったが、いま世界が太陽光発電ブームなのにこの祭典にないのはおかしいと、締め切り過ぎてから特別に出展の誘いをもたらしての参加であった。横浜の桜木町駅近く、紅葉坂の県青少年センターが会場である。展示会場は1階から3階まで使われていた。わがブースは、玄関わきの広い車寄せのスペースをほぼ独占。それに見合った出展内容をと、神奈川地域交流会が持てるフル装備の出展である。太陽光発電の説明パネル展示。ソーラータウン、太陽電池モジュールでテレビ放映、太陽光発電でドン! モジュールで噴水、ソーラーグッズ、相談コーナー、特に1時間間隔のこども向けやさしい太陽電池の仕組み説明タイムも設けた。朝の10時開会には多くの青少年が押し掛けて列を作った。例年を上回る2,000人を超す入場者があったという。

④9月22日(木): 県立磯子工業高校へ出前授業・・・一昨年から



県立磯子工業高校へ出前授業・・・一昨年から県や市に登録しておき、各学校からの依頼を待つ形である。昨年は平塚の小学校で行ったが高校は指名がなかった。今年は平塚の小学校では近隣グループで既に行っていた。高校は工業高校ということで、太陽光発電で水の電気分解、作った水素で燃料電池を動かす実験に取り組んだ。参加生徒が電気科の2クラス70人を相手の2時間授業。収容できる教室が視聴覚教室しかないというので、運営に苦労した。何しろ階段教室、ステージも狭くグループ学習ができない。反省、わかっていたが、70名に対して一度に実験を伴う授業は無理がある。まして階段教室では展開ができない。

⑤10月16日(日): ほどがや区民まつりに出展・・・例年参加しているイベントだが、今年予定10月15日(土)は前日からの雨と強風注意報が出ている中での開催。朝7時時点ではインターネット情報で決行ということで荷物を積んで会場の保土ヶ谷公園にかけつけると、入口に「本日は中止、明日行きます」の看板。啞然! 場内のテントがあちこちで強風にあおられて吹っ飛んでいた。翌16日、風は強いものの次第に天気は回復、暑い暑い1日になった。広い公園内に出席団体が200以上。昼ごろからは観客がどんどん増えて大賑わい。こども達にはドンの人気が凄く、70人を超える挑戦者で、賞品の飴玉もそこを突

くほどだった。時々迷子の場内放送が流れていた。

⑥10月23日(日): さがみはら環境まつり・・・昨年政令指定都市になった相模原市は環境問題にも積極的で、次々と環境イベントがある。ここも参加の常連になっているので出展した。お天気もなんとか持ち直して賑わいを見せた。今年の出し物はパネル展示のほか、太陽光発電でドン! テレビ放映、噴水、ソーラーグッズなど。相談コーナーも設けた。環境展であっても、「太陽光発電を設置しませんか」と声をかけても感心のある人は少なく、どうしたら、市民の関心を高められるのか悩む毎回である。

⑦今後のイベント参加の予定・・・11月19、20日(土・日)に「さがみはらフェスタ」と「小田原市環境イベント」に両方にわかれて参加予定で準備中である。(神奈川地域交流会 横谷公雄)

## 千葉地域交流会

～自家消費の環境価値は国のもの?～  
年に1回開催している千葉地域恒例のフォーラムを、今年10月8日(土)に市原市のサンプラザ市原で開催した。

環境省地球環境局地球温暖化対策課の工藤俊祐氏に「再生可能エネルギー導入拡大に向けて」と題して基調講演をいただいた。

環境省の調査によると、開発可能な太陽光(一般住宅を除く)、風力、小水力、地熱の合計潜在発電量(年間)は約3300億kWhで、全原子力発電の発電量(年間)

2611億kWhを上回った。「開発可能な」とは、対象エネルギーごとに建設単価、FITによる買取価格・期間等を仮定し、事業収支がプラスになり、具現性の高いものを集計した結果であることが報告された。もちろん、それぞれのエネルギー導入に当たっての課題点についても説明があった。

続いて太陽光発電協会幹事の杉本完蔵氏に「太陽光発電システムの最新動向と普及拡大について」で講演いただいた。

まず2012年7月から始まる全量買取制度の詳細についてはこれから議論が始まる段階で、現時点では何も決まっていないという。太陽光発電の設置規模がある一定を超えると昇圧設備や送電設備(鉄塔)の負担が発生するという新たな問題点が紹介された。エネルギー種別、規模別に細かい設定が想定されるが、要は企業が収益を上げられるような買取価格・期間になるかどうか最大のポイントであるとの話だった。

住宅用はこれまでと同じ余剰電力が買取対象であることが確定で、平成24年度からは37～39円/kWhぐらいになるのではないかと予想した。なお、自家消費分の環境価値は基本、国のものとする考え方が紹介された。ただしグリーン電力として売りたい場合は申請(?)すればよいとのことだった。

市原市環境管理課の石川尋志氏から「市原市の太陽光発電システム補助制度について」報告していただき、PV-Net千葉からは運用実績から作成した発電量に関する各種データの報告、PV健康診断、自立運転機能などの紹介、PVの長所・短所、特長などを説明し、最後に質疑応答で締めくくった。

参加者からは細かい質問が多く

寄せられ、ここ数年で間違いなく一般の方のPVに関する基礎知識が向上していると感じられた。参加者がこれまでのフォーラムの中で最少人数だったことは少々残念だったが、PVがもうめずらしいものではないと考え、当然の結果かもしれないと思う。フォーラムの内容について世話人会で再検討したいと考えている。

(千葉地域交流会 宮下朝光)

## 関西地域交流会

～関西地域交流会8月開催～

8月28日に開催した、関西地域交流会はこれからの関西の活動を展開していく上で大きな意味を持っていたと思います。呼びかけに対して、90名の方から連絡があり30名の方が参加しました(会員数200名)。呼びかけに同送したはがきにもいろいろ意見を書いてくださり、メール送信が多くなった昨今ですがはがき1枚の意味も貴重だと感じました。さて集会では、様々な活動を地元で展開されていて、自ら別のネットワークを立ち上げていたり、NPOを運営している人も多く、PV-Netはそれらの活動をつなげていく役割があるとも思いました。また、共通の関心ごとに4つの課題別グループが提案されました。グループごとに深めていき力をつけていこう、と。①環境・教育・文化・PR+事業化 ②行政・地域社会システム・コンサルタント+事業化 ③PVのハード面・診断・相談+事業化 ④エネルギービジョン+事業化、の4点です。

<4つの課題別研究会>

①環境・教育・文化・PRとその事業化の研究・・・この研究会の課題は、PV-Net.KAとして、環境問題やエネルギー問題の関心を高めるための活動について検討することである。学校教育へのボランティア授業、講演会、他の団体との協同イベントへの参画等が考えられる。特に、教育に従事した(教育活動のスキルを持った)会員に積極的に参画してもらい、学校でのボランティア授業や教員への教育サポートを行う活動である。

②行政・地域社会システム、コンサルタントとその事業化に関する研究・・・この研究会の活動は、再生可能エネルギー促進法案が成立し運営されるこれからの社会経済システムでPV-Netの役割を検討することである。特に、企業、公共団体や行政が太陽光発電所を設定する場合、その運営に関する助言、メンテの相談や請負作業等が生じると思われる。それらをPV-Net.KAのビジネスとして展開し、各府県世話人会が担うための運営や組織に関する研究を行う。

③PVのハード面・診断・相談とその事業化に関する研究・・・この研究会のテーマは、PV-Net会員へのサービスをビジネス化しようとするものがある。特に、PV-Netには、電気や建築関係の技術スキルを持つ会員がおり、事業を行っている場合もある。それらの会員達がPV-Netの事業に参画し、自



らの事業と PV-Net の事業の共同・協働化を図り、より多くの会員を獲得し、また会員へのサービスを事業化するための検討を行う。特に、こうした PV-Net の事業は地域密着型が前提となるため、また、PV-Net の理念に基づく事業化を展開するために、各府県の世話人会が担える事業組織化を展開する必要がある。こうした、地域密着型の事業の運営組織上の課題を研究する必要がある。また、この課題は、上記した②の課題、行政・地域社会システム、コンサルタントとその事業化に強く関係している。そのためにも、PV-Net.KA として太陽光発電所設置やメンテナンスの技術者を確保しなければならない。その場合、それらの技術者には会の趣旨を理解してもらう必要がある。その意味で、会員がそれを担うように③の課題を運営する組織を作る必要がある。④再生可能エネルギービジョンとその事業化に関する研究・・・この研究会では、PV-Net の基本趣旨（基調）を国家や地方社会の政策に展開するための課題を検討する。例えば、再生可能エネルギー促進法案の施行に伴う、課題を分析し、その改善案を提案し、他の再生可能エネルギー事業団体との交流を企画し、再生可能エネルギーですべての社会経済システムが運営される未来社会のためのビジョン、政策提案、イベント等を企画する。その意味で、上記した事業、C1 の環境・教育・文化・PR とその事業化や②の行政・地域社会システム、コンサルタントとその事業化課題と関連することになる。以上 4 つの課題別グループでしたが、なによりも緊急に必要なのがこれらをまとめていける事務局体制の設置です。現在世話人会としての決定機能がスピード感をも

って対応できず、ニュースに新鮮味がなかったり、広報がゆとりを持ってされなかったためにイベントが不発に終わったりと多々マイナス面が出てきています。手弁当の市民運動の時代から、持続可能な組織へと生まれ変わる必要が出てきているといえるでしょう。また会員の世代交代も視野に入れる必要があります。1年間かけてできるところから形にしていきたいです。

(関西地域交流会 岸本康子)

## 京都地域交流会

～京都地域交流会の活動 3 年目～  
2009 年 2 月に PV-Net 京都地域交流会が発足し、現在 3 年目の活動である。

NPO 法人 太陽光発電所ネットワークとして、18 番目の支部として、2009 年 2 月に発足した。前年まで、京都地域の会員は、13 名ほどであった。折しも、JR 京都駅前に出来た「ビックカメラ」店が、地産地消をモットーに京都産の太陽光発電の電力を 10 万 kwh の購入を PV-Net 事務局に申し出たことで、京都地域に PV-Net 会員を募集した。そして、その年 2 回の講演と 1 回の見学行事を実施した。2008 年の暮れには、40 名の会員となり、2009 年 2 月に発足総会を開催した。

2009 年度と 2010 年度に 2 回のフォーラム、2 回のイベント参加。そして、2011 年の今年も、2 回のフォーラム、2 回のイベント計画立案中である。そして、会員であるメリットを積極的に発信したい。

第 1 回は、11 月 5 日（土）13:00～「私たちの太陽光発電利用と『電力不足乗り切り術』を学ぶ」と題して、飯田市の原 亮弘



氏（おひさま進歩エネルギー代表）の実践報告に学んだ。「市民の意志あるお金で取り組む自然エネルギーの普及促進～今こそエネルギーシフトを～」で Power Point46 枚を約 2 時間で講演して頂き、地産地消のエネルギーを目指して NPO を立ち上げ、おひさま発電所の設立の経緯などを学び、京都市が構想を発表した「市民協働発電制度」の基本的な構想の参考になるお話であった。その後の懇親会には、12 名の参加を得て、自己紹介から今後の活動談義で大いに盛り上がった。

第 2 回目のフォーラムは、来る 11 月 27 日（日）14:00～「可搬式太陽光発電システムの使用事例とその作り方」と題して、奈良の PV-Net 会員西田三千男氏に講演をお願いしている。屋根に設置した太陽光パネルだけでなく、ハンディタイプのパネルに関心を持ち、手作りして利用、そして、パネルへの関心を高めるといった実践を発表して頂く。次回のフォーラムも楽しみである。

今年度のイベント参加は昨年続き、PV-Net 京都の活動を、「京都議定書」発効を記念して建設した「京エコロジーセンター」の XmasEcoFesta(12 月 23 日（祝

)の会場にパネル 3 枚で紹介する。さらに大型の太陽光パネル設置の状況（大学、工場、堺のメガソーラーなど交渉中）の見学を計画している。

なお、PV-Net 京都の活動は、京エコロジーセンター（京都市）の環境保全活動助成事業の支援を受けて開催している。2009 年から 3 年連続で補助を受けている。現在の PV-Net 京都の会員は 55 名である。

(京都地域交流会 中村和歳)

## 中部地域交流会

中部地域交流会は月 1 回の世話人会を基本に、v i a サン・エコライフ学校、「1 枚からの太陽光発電の利用」の拡大と、イベントやセミナーへの準備と参加案内におわれています。

7 月 17 日（日）多治見ハウジングセンター（太陽光発電に関する

セミナー)、7 月 23 日（土）一宮生協/夏休みこども環境広場、7 月 24 日（日）田原市エコフェスタ 2011 への展示、9 月 18 日（日）「環境デーなごや 2011」展示、10 月 8 日（土）中津川市環境フェア、10 月 29 日（土）ピンポンハウスのちいさな学校（なごや環境大学）というのが私たちのこしばらくの活動です。

180 名という愛知、岐阜、三重、長野というエリアの中部地域交流会ですが、日常的には会員さんを充分カバーできていません。メールアドレスのある方にはメールを、こしばらくは「ハガキニュース」も発行しています。この「ハガキ」につきましては、使い損



ねたハガキをくださるようお願いしましたら、幾人かの方からお送り頂きました。この場をかりてお礼申し上げます。

11 月 19 日（土）今年で 5 回目の『エコハウス暮らし方交流会』でした。のご案内も「ハガキニュース」でしたが、30 有余名の参加につながりました。今回の、『エコハウス暮らし方交流会』では、恒例になりました華原の会（生け花の流派）による野草の生け花ワークショップ、中津川自然エネルギーの会と共同しての小型水力発電の導入事業紹介、スイッチングインバーター（緑側君）の利用と技術交流会をやりました。

(中部地域交流会 三浦悦夫)

## PV-Net 川柳 第 17 回

今年、3 月 11 日の東日本大震災で日本中が滅んでしまっているようですが、3 月 10 日間の PV の発電量は、ここ四年でも今年が最高である。今年も原発より PV が持て囃されたので、次の句を献上する。

・アトムより 今も寵児のソーラーマン

原子力発電所の為、体で、太陽光発電に光が射してきた。

エネルギー源を原子力や化石燃料から自然エネルギーの転換しようというのだが、哀れかな前後の見境もなく、猫も杓子も太陽光発電だとさわめく。個人住宅の屋根にパネルを乗せて、自分の使うエネルギーを賄う何で、微笑ましい光景だろう。

原発が世も末の有様をみて、目先の利に走って、目が空だでなく、メガソーラーとほざく輩が臨界後の放射能か、ウンカか、雨後の竹の子か知らないが、続々現れた。

メガソーラーという前に、インフラ設備はしっかりと構築しなければならぬ。

レールを造って超特急を走らせて事故を起こした隣国と同様、メガソーラーを作ったのはよいが、コントロールができない何てなったら…。

必要なのは、メガソーラーの代わりに、24 時間稼働の太陽熱発電所だろう。

関係休題。

川崎の五右衛門氏から、3 部作を頂戴した。

・これでもか！ なお、原発を止めぬ国

・とはいえど なかなか増えない PV 電気

・EV 車 ぜい PV で 走らせよう

五右衛門氏は、エネルギー自給率 4% の資源小国が、只の太陽エネルギーの導入に積極的でないのを嘆いておられます。

つい、4 5 年ほど前は、我が国はソーラーパネルの生産が日本一だといっていたが、今は、昔の光今いずこ、だ。太陽は不滅なのに。

埼玉の WXYZ 氏の解説をしよう。

・物好きも 十五年経ち 見直され

・PV も 自立運転 蓄電池

・停電も ビールで乾杯 PV 感謝

・我が国は 停電あつても 子は増えず

一首は、永久に償却しない PV を設置する何で家族から飽きられたらどう。二首目は 24 時間稼働を目指す PV にはパネル代と同額の費用がかかるバッテリーはぜい備えたいところだ。脱原発も真剣味がある。三首めは、蓄電池設備されたときの願望だろう。

四首目は、1977 年のニューヨーク大停電後に、ベビーブームが起こったのは確かなようだ。サイエンスライターの私には理由はわからない。

(担当：普及広報部・松田広行)

## 2011 年度第一回理事会

日 時：2011 年 9 月 17 日（土）  
14：00～16：00

場 所：PV-Net 事務局 / 参加者：  
理事 10 名、事務局 3 名

### 【確認事項】

◎年間スケジュールの確認

会報の発送時期の日程について再生可能エネルギー世界展示会の事前報告や地球環境基金・事業成果の報告会を絡めた会報を適切な時期に発送していくとの報告がありました。

◎運営体制

理事会体制の変更による理事の減少、地域への理事会情報伝達が課題であるとの事と事務局体制に変更があり退職者・新任者の紹介、各業務体制が説明されました。

理事会情報はブロック選出の理事が責任を持ちブロックごとに代表者会議を開催してほしい、及び地域割りは実態に即し臨機応変に対応したら良いという理事の意見がありました。

### 【報告事項】

◎財政部（都筑）

これからは会員収入・自前事業を念頭に置きトラブル事例・発電データを研究者や保険会社に販売するにあたり地域データの収集を確実にしたいと説明がありました。昨年の決算に比べて繰り越しが少ない、期の途中でつなぎ融資をお願いする可能性があるとの報告がありました。

◎相談室（國井）

京セラシステムの一斉点検：3 月から開始された一斉点検のため順次調査対象者のリストアップを行っておりリスト化が終わった埼玉県会員分は調査が開始されているとの報告がありました。

PV カルテ情報は PV-Net の貴重な財産であり社会的にも高い評価と情報価値を認められており今後さらに充実を図っていくとの報告がありました。

◎普及広報（松田）

12 月 5, 6, 7 日に開催される再生可能エネルギー世界展示会に出展予定。

PV-Net は来年で 10 周年であり、これまでの軌跡をまとめた冊子の作成を考えており、詳細は普及広報部で別途検討していく事が確認されました。

◎CO2 最小化事業アンケート調査（伊藤）

国が単純計算している全国 70 万戸の総発電量は、実際の不具合事例を含めれば誤差が生じる筈であり地球環境基金の補助金を受けて実態調査を始めたとの報告がありました。

全国の自治体約 400 件に実態調査協力を募り約 50 件から協力出来る旨の回答があったとの説明がありました。PV 健康診断のオープン化については別途検討することとなりました。

◎自然エネルギー学校について  
4 月にオープンした小諸エコビレッジで 10 月 15, 16 日に開催される PV-Net 主催自然エネルギー学校について及び小諸エコビレッジについての説明がありました。

◎PV 普及員要請教育カリキュラム（横谷、藤井）

藤井代表、横谷副代表、國井理事、都筑理事、宮下（エコテック）、事務局 伊藤により PV-Net だからこそ出来る統一された PV 普及員要請教育カリキュラムテキストを作成する報告がありました。PV 普及の正しい知識と技能の習得を目指し就職にも役立つような

テキスト制作を進行する事が説明されました。

◎被災調査・支援（田中 東紀男）  
震災後、被災地を調査し現在は都筑事務局長がデータを集計しているとの報告があり、流れてしまった PV の再利用などは今後検討していくとの説明がありました。

◎再生エネルギー法の動向+かながわソーラープロジェクト（都筑）  
第 177 回通常国会にて成立した「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」について説明がありました。またソーラープロジェクトにおいて神奈川県から 2020 年までに消費電力の 20%を補う発表があった事が報告されました。

◎太陽光発電システム及び施工の標準化（都筑）

標準化に関する項目は全部で 47 項目あり、経産省で施工師認定制度と教育内容について具体化してきているとの報告がありました。

◎PV-G と CO2 クレジット問題（都筑）

国が勧める環境価値であるグリーンリンクエナジークラブに比べ、同じく環境価値である PV-Net のグリーン電力証書のみが厳しい測定法を求められている点において枝野経済産業大臣に要望書を提出するとの報告がありました。要望書を確認し、意見内容をもっと強めても良いのでは、という意見がありました。

◎各地の動向・関東（田中稔理事）  
イベントごとのパンフレット配布、PV 不備者への案内、PV 設置の家の見学や毎月世話人会で進捗確認を行っているとの報告がありました。

・中部（武田理事）

暮らし方交流会、1 枚のパネルの導入と活用の報告、また、ユーザー中心の PV-Net という観点を補

強したいとの意見がありました。

・関西（岸本理事）  
前回の総会開催で様々な声が上がっており、PV 普及において関西地域で得意分野に特化したボランティア会員の新たな

## 財政部

PV-Net 会員の仲間の皆様如何お過ごしでしょうか。今年から PV-Net の財政部を預かることになりました群馬地域交流会の梅澤です。既に重々ご承知のこととは思いますが、PV-Net の財政は大変心細い状況にあります。特に東日本大震災以降見通しはあまりよくありません。さりとて私たちの自然エネルギーに対する取り組みは、「フクシマ」以降ますます重きを置かれ社会全体に必要なものになっています。そんな PV-Net を下支えする大変に地味で有りながら重要な存在が「財政」です。総会でもアピールをさせて頂きましたが、腰の据わった重量感のある PV-Net を創るために会員の皆様の協力を頂きたいと思えます。具体的には、これから財政部会を開催し煮詰めて行きたいと考えています。

「力合わせ・知恵合わせ。額に汗かき脳みそに汗かき」をお願いします。（財政部 梅澤耕一郎）

## 相談室活動報告

相談室ではメーカー各社と PV モジュール不具合による発電量低下に対する対応を進めています。その中で株式会社京セラソーラーコーポレーション（以下、京セラ）と「一斉点検」と言う形で対応を進めています。京セラ製 PV システム設置の PV-Net 会員には、既に 3 月～4 月に地域相談員を通じて「京セラ 太陽光発電システム 一斉点検予備調査票」を配布してデータを記入して返信しても

体制が動き出すところだと考えていますと報告がありました。

【討論】 理念（都筑）

PV-Net の理念や目的の再共有と共に社会や未来への目標を達成す

らっています。返信されたデータをもとに PV-Net 側で PV 健康診断を使って一次判定を行い、不具合の可能性のありそうなシステムを持つ会員のリストを京セラ側に提供し、京セラ側で個別に会員宅を訪問して調査するという手順で行っています。現在、返信されたデータの PV 健康診断行っており、県単位でまとまったところから順次リストを提供し、現地調査に入っております。既に埼玉県の会員には、京セラによる現地調査が行われているところです。今後、実施地域を拡大していきます。また、京セラのシステム設置者で、一斉点検予備調査票を出し忘れていた方、あるいは一斉点検予備調査票が届いていない方がありましたら、地域相談員又は事務局に連絡して下さい。せっかく設置した PV システムが有効に働くようにお守りをしてやってください。京セラ以外のメーカーのシステムを設置した方でも、発電量に不安がある場合は、遠慮なく地域相談員又は事務局、相談室にご相談下さい。（相談室 國井範彰）

## 組織部

PV-Net 会員は 2,528 名（10/30 現在）。結成以来 8 年半が経過しますが、500 名で出発した組織が 5 倍の組織に成長してきました。この伸び率をどう見るか、PV の普及率から見ると確かに遅すぎるかもしれませんが、この種 NPO 組織の中では断トツの数を誇っているといえます。当初東電管内を中心にして結成した組織から全国への拡大方

る事を説明しました。

NPO 法人と理事の役割（伊藤）

NPO 法人の概念、ボランティアな市民活動の活動支援が目的である事との説明がありました。

針を決めた時には、一部の理事らがこれに反対という口実のもと組織の転覆を狙う動きがありましたが、これを栃木事件といっていますが、こうした厄介な問題も事務局始め PV-Net の発展を望む多くの会員の支えで乗り切り、今日に至っています。以降、関西・中部・九州の広域地域組織ができ、県別の地域交流会が次々に結成されて、次は広島・沖縄・などの組織化を目指しています。四国・東北も 1 県単位では無理がありますが広域の組織を立ち上げる可能性ができています。

また会員の空白を無くす努力をしてきましたが、今は全国すべての県に会員が存在しています。

これからの組織部の課題は、

- 1、会員拡大のテンポをはやめる（早期 3000 名組織へ）
- 2、地域交流会組織を全国すべての県に
- 3、各ブロック体制の強化、まずはブロック別地域代表者会議開催
- 4、理事会と地域交流会、地域交流会世話人会と会員の繋がり強化、及び、地域交流会活動の活発化
- 5、財政力強化、会費納入率 100パーセント化

会費の健全なる回収のために、多くの地域で回収努力をされていますが、なお一層会員との繋がりを強めることと並行した取り組みをお願いいたします。

（組織部座長 田中東紀男）

## ☀️ ご寄付、どうもありがとうございました！

大友嶺男 梶原光男 栗原稔 重宗利明 齊藤孝 佐藤俊夫 鈴木昭男 所宣夫  
中田芳雄・タカ子 内山明夫 小笠原美知子 手島肇 佐藤史子 千秋達雄  
中川善樹 岸本康子 長澤志郎 長沼真澄 陣野澄子 白石登志子 柳瀬仁茂  
本田親久 喜多正雄 匿名希望7名(順不同)

・・・活動へのご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

## ☀️ PV-Net 活動を応援して下さる、 賛助会員を募集しています！

太陽光発電所ネットワークでは、活動趣旨に賛同し運営を支援して下さる団体・企業・個人の皆さんを募集しています。賛助会員名は、当団体のホームページ(以下 PV-Net HP)、賛助会員一覧にも掲載されます。募集の詳細はPV-Net HPをご覧ください。事務局までお問い合わせ下さい。

	年会費(入会金※1)
企業・団体	3万円/1口 1口～※2
個人	1万円/1口 1口～

※1 初年度は入会金のみで年会費は不要。  
※2 年会費は1口以上でお申し込み下さい。

## ☀️ ボランティアを募集しています

事務局(東京・御茶ノ水)にて定期的(週1回程度)に入力・印刷などを行う事務作業、会報の発送やイベント出展ボランティア、在宅でのHP作成など、できる範囲でお手伝い下さる方を募集しています。ご興味・関心のある方は一度事務局までお気軽にご連絡下さい。時間、頻度、作業内容など希望を伺い調整させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

## ☀️ PV-Net のツイッターが始まりました

ユーザー名は「PV\_Net」です。twitter ページで「PV\_Net」(注:アンダーバー)と検索してください。twitter なさっている方、いらっしゃいましたら是非フォローしてください。

### ペンギンのはばたき

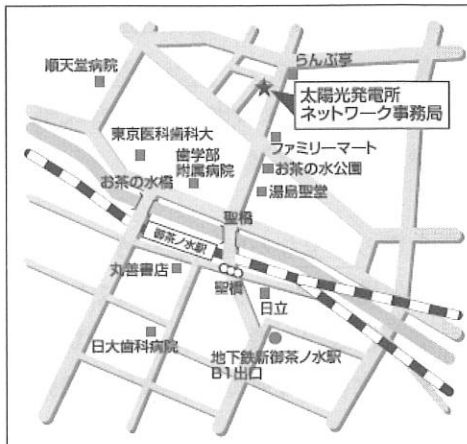
■12月の再生可能エネルギー世界展示会への出展準備が進んでいます。メインの提言は「大規模エネルギーから地域分散型エネルギーへ」です。多くの自然エネルギー関連団体の中でPV-Netならではの役割がありその期待が年々高まっています。それに応える熱意で普及広報部を始めとして対応しています。(都)

■8月より事務局で働かせていただいております。ここでは

学ぶことが多く頭がグルグルと回ります。これまでPV-Netが築いてきた事をひとつひとつ理解し、関る全ての方がより良く動けるよう努めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。(高田)

■やることの山がたくさんありすぎて戸惑う日々。できることからコツコツと進んでいきたいと思ひます。寒さが厳しくなってきました。皆さんお体に気をつけてお過ごしください。(い)

Editor's Notes



特定非営利活動法人  
太陽光発電所ネットワーク(略称:PV-Net)  
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10  
湯島ビル202号室

#### 〈交通のご案内〉

- ①JR/地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口(秋葉原駅側)」より徒歩5分
- ②地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分

TEL 03-5805-3577  
FAX 03-5805-3588  
URL: www.greenenergy.jp  
E-mail: info@greenenergy.jp

頒価: 400円(会員は会費に含まれています)

### 〈6月〉

- 4 見学会 (埼玉地域交流会)  
ちばし手づくり環境博覧会(千葉地域交流会)
- 4-5 エコライフフェア(東京地域交流会)
- 4-5 『アジェンダ 2011』(神奈川地域交流会)
- 5 ふっさ環境フェスティバル出展(東京地域交流会)
- 8 神奈川地域交流会緊急世話人会  
東京地域世話人会
- 11 世話人会 埼玉地域交流会
- 18 千葉地域交流会『エコライフフェアいちばら』  
千葉地域交流会世話人会
- 23 神奈川地域交流会世話人会
- 25 兵庫地域交流会 世話人会

### 〈7月〉 = = = = =

- 6 東京地域世話人会
- 7 クールアスデー 2011 in 埼玉(埼玉地域交流会)  
『ひらつか環境フェア 2011』  
(神奈川地域交流会 & 湘南 G)
- 9 世話人会 埼玉地域交流会
- 16 千葉地域交流会 世話人会
- 17 兵庫地域交流会 世話人会
- 21 神奈川地域交流会 世話人会
- 30 【2011年度】通常総会

### 〈8月〉 = = = = =

- 7 世話人会(埼玉地域交流会)
- 10 東京地域世話人会
- 18 神奈川地域交流会 世話人会
- 21 『エコライフ in みのぶ』(山梨地域交流会)
- 27 メガソーラー見学(宮崎地域交流会)
- 28 関西地域交流会(関西地域交流会)  
兵庫地域交流会 世話人会

### 〈9月〉 = = = = =

- 7 東京地域世話人会
- 10 小平エコフェスティバル(東京地域交流会)  
埼玉地域交流会 世話人会
- 14 中部地域交流会世話人会
- 15 神奈川地域交流会 世話人会
- 17 千葉地域交流会 世話人会
- 19 関西地域交流会 世話人会  
兵庫地域交流会 世話人会
- 22 出前事業 in 県立磯子高校(神奈川地域交流会)

### 〈10月〉 = = = = =

- 8 千葉地域フォーラム(千葉地域交流会)  
埼玉地域交流会 世話人会
- 14 東京地域世話人会
- 15 『志木市越戸川まつり』出展(埼玉地域交流会)
- 15-16 第1回小話/自然エネルギー学校
- 16 『ほどがや区民まつり』(神奈川地域交流会)
- 20 神奈川地域交流会 世話人会
- 22 千葉地域交流会 世話人会  
堀江オルゴール博物館見学 &  
太陽光発電勉強会(兵庫地域交流会)
- 22-23 『ひらつか環境フェア』(神奈川地域交流会)
- 23 『さがみはら環境まつり』出展  
(神奈川地域交流会 & PV 相模原)  
『ニャオザネまつり』出展(埼玉地域交流会)
- 29-30 『川越さんぱく・環境展』(埼玉地域交流会)
- 29-30 『エコフェ2011 in UBE』(山口地域交流会)
- 30 兵庫地域交流会 世話人会